

# 市販パーツによるゼロ・エミッション・ビークルへの挑戦 市販車の電気自動車改造の実例

今井 雅晴  
Masaharu Imai



## 動機

地球温暖化、環境問題が問いただされる中、エコ商品のマーケット・リサーチのため、今から5年ほど前になりますが、アメリカを訪れました。そのとき、アリゾナ州フェニックスで電気自動車(EV)の大きなレースがあると聞き、西海岸のロサンゼルスから足をのばしたのです。

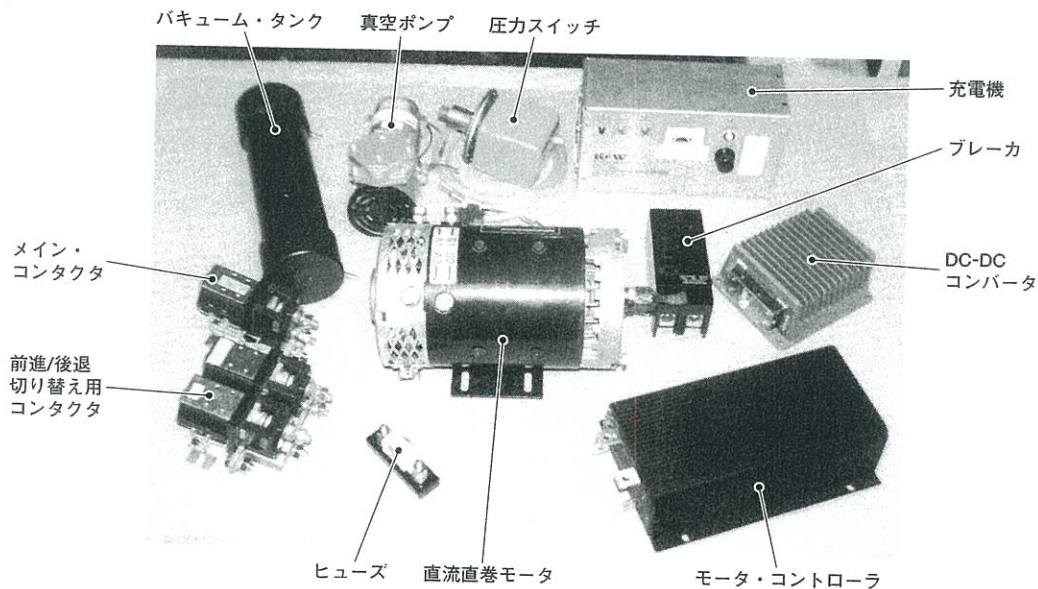
広大な大陸の砂漠の中に生まれた近代的な都市で、なぜEVのレースが…との疑問をもちながら会場へ向かいました。春というのに日差しも鋭く、会場内は多くの熱気に包まれているにもかかわらず、何か普通と違うカー・レースです。

そうです。音がしない「無音」のカー・レースです。少し迫りに欠けますが、車が風の中をすり抜けて行く、その不思議さに魅了されてしまいました。またこの大会では、高校生から一般まで幅広く大会に参加でき、

自分達のコンバートした車の発表会でもあるように、気軽に車の中を説明付きで見せてくれます。

また、参加車両の約半数が高校生であるのにびっくりさせられました。ここアメリカは車社会、車がなければ日常生活に事欠くことが多い大きな大陸です。しかし近年、都会の中の大気汚染がかなり深刻な問題となっています。大気浄化に関する環境教育の一環として、このレースが開催されていることを理解させられました。

また、これらEVは、なんとシンプルかつクリーンなんでしょう！会場内には改造用のパーツも数多く展示され、アドバイスも気軽に受けることができます。これを体験したら、作らないではいられなくなりました。



〈写真1〉EV改造用パーツ